

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
札幌医学技術福祉歯科専門学校		昭和57年3月19日		佐々木 雅男		〒064-0805 札幌市中央区南5条西11丁目1289-5 (電話) 011-513-2111				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人西野学園		昭和43年1月10日		前鼻 英蔵		〒063-0034 札幌市西区西野4条6丁目11-15 (電話) 011-661-6514				
分野	課程名		学科名			専門士				
医療	医療専門課程		作業療法士科			平成29年文部科学省 告示第29号				
学科の目的	作業療法士科は、学校教育法並びに理学療法士及び作業療法士法に基づき、授業や演習、医療機関での実習を行い、作業療法士として必要な実践能力及び専門的知識・技能を習得させるとともに、その特性を養わせることを目的とする。									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技		
3年	昼間	2835時間	1320時間		570時間	945時間	-	-		
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
120人		47人		0人	6人		34人		40人	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学習成績の評価は、定期試験(論文含む)、または演習、実習などの成績ならびに平素の学習活動全般から得られる評価資料(レポート等)に基づいて総合的に行う。 科目の成績の総合評価は、100点法をもっておこなう。 科目の評定は総合評価に基づいて秀・優・良・可・不可の5段階で行う。					
長期休み	■学年始:4月1日～4月6日 ■夏 季:8月7日～8月31日 ■冬 季:12月24日～1月17日 ■学 年 末:3月18日～3月31日			卒業・進級 条件	校長は、当該学年の履修すべき科目のすべてを修得し、学校納入金を完納した者に対して、進級を認める。 また、当該学科所定の修業年限以上在学し、履修すべき科目のすべてを修得し、学校納入金を完納した者に対して、卒業を認める。					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 各学年、年度当初の個別面談のほか実習前後、長期休み前後に個別指導を実施。また、各学年単位での保護者懇談会を実施。			課外活動	■課外活動の種類 学園祭、バスハイク、大会ボランティア 学科交流事業、地域清掃					
就職等の 状況	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 医療法人等の病院、診療所、介護老人保健施設等 ■就職指導内容 学内に学生サポートセンター就職支援担当者が常勤し、集団指導及び個別指導を実施。また、リハ職合同就職説明会を開催し就職支援を実施。 ■卒業生数 9 人 ■就職希望者数 7 人 ■就職者数 7 人 ■就職率 : 77.8 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 77.8 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等)	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)					
当該学科の ホームページ URL	https://nishino-g.ac.jp/iga/sagyoryohoshi/									

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法士科) 平成31年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任
○			基礎生物学	「生命」「ヒトの生物学」についての基礎生物を学びます。授業を通じて、理論と実践の両面から考察します。生命、誕生等、生命に関わる内容、ヒトの生物学、生命現象に興味を持てるようになります。生物は細菌からヒトまで共通の原理に基づきながら複雑さと多様性を持つことを理解し、医療技術者として必要な生命に対する理解を深め、生命とそれを支える生命現象の仕組みについて理解を深め説明することができるようになります。	1前	15	1	○			○			○
○			基礎物理学	各種の作業療法を学ぶときに必要となる物理学の基礎を学習します。特に、作業療法を行うときに用いられる様々な機器の原理やメカニズムを理解するために必要となる物理学の基本的な法則や原理を学習します。本科目では、高等学校で「物理」を履修していない場合があることも念頭に、作業療法士として必要となる物理学の基礎を身に付けることを目指します。 論理的な思考を身に付け、各種の作業療法で用いられている物理学の基本的な法則や原理を理解し、説明することができるようになります。	1前	30	2	○			○			○
○			文章表現法	自分の意見を伝えたり、相手の話を正確に聞き取るなど、ことばによるやり取りはコミュニケーションの重要な位置を占めます。また、正確で表現力豊かな文章を書くことは、社会人として欠かせない基本的素養です。書き手の考え方、意見心情がどのように表現されているかによって、読み手に対する説得力が大きく違ってきます。そのため、論旨の展開や文脈を整える技術を身に付けることが必要になります。自分の考えをまとめて、他者に伝わるような文章にしていこうというプロセスを経験し、レポート等の作成に役立てていくことをねらいとします。 自分の考えていることを具体的に表現し、的確に述べることができ、正確かつ的確に伝える文章表現力を身に付け、実践することができるようになります。	1前	30	2	○			○			○
○			情報処理	近年の高度医療化傾向は、従来の医学固有の技術のみならず周辺領域の科学技術によって支えられています。特に急速な発展を遂げているIT技術はその代表です。この授業ではパソコンで広く利用されている日本語ワープロソフト、表計算ソフトの操作を演習を通して学び、情報処理に必要な技能や応用力を身に付けます。 初めての人もパソコンを操作することができ、インターネットなどを活用した情報検索や処理、職場でパソコンを利用し、専門の業務に役立たせることができるようになります。	1前	30	1		○		○			○
○			心理学	近年、「心理学」という言葉がメディア等を通じて社会に広まりつつあります。また、2017年9月に公認心理師法が施行され、「心のケア」「心理的支援」という言葉がより一層身近に感じられるものとなりました。本講義では、「心理学」という学問がどのような学問であるのか？ということについて、人間の心の仕組みと働きについて、様々な視点から理解を深めながら学んでいくことを目的としています。また、心理学の社会的貢献性(心理学を応用することによってできること)やその可能性の限界(反対に心理学にできないこと)についても学んでいきます。	1前	30	2	○			○			○
○			英語	国際社会化が進む中、公用語として幅広く使用している「英語」による会話を学びます。リハビリテーションの性格上、切っても切れない関係にある上、コミュニケーションの1つの手段として日常会話の取得を目指します。医療に関係した英文の講読や英語表現の演習を通して、医学および医療現場で良く使用されている英語の読解力・聴解力・表現力を養います。 簡単な挨拶をはじめとする日常英会話ができ、英語に慣れ、医療現場でも実践でき、アブストラクト(要旨)が読むことができるようになります。	1前	30	2	○			○			○
○			体育	体育実技を通して自身の体力の向上をめざします。 各種目の練習、ゲームを通して隣人とのコミュニケーション(相手への思いやり・相手の立場等)を身に付けます。	1通	45	1				○	○		○
○			職業とキャリア	「働くこと」の意義を学び、社会人・職業人としてのモラルの知り、21世紀における社会の動向について学び、社会人としての基本的な職業観を身に付けることを目標とします。 「働くこと」「職業とは」について学び、人間社会に取っていかん重要かを知り、医療現場で役立て、職業人としての心構え・態度、すなわち「マインド」について知り、他者に説明でき、社会の動向を知り、その中で職業人として社会の変化にどのように対応して行くかを知り、実践することができるようになります。	1前	15	1	○			○			○

○			ソーシャルスキルⅠ	作業療法士にとって、医学知識や作業療法の技術とともに重要なのがソーシャルスキルです。臨床でよい仕事をするためには、患者様や病院関係者・上司・先輩等と「スムーズな人間関係を築く」ことが必要です。加えて、社会人として仕事をしていく上で自己管理能力も大事です。この科目では、挨拶・敬語・接遇・マナー・身のこなし・エチケット・好印象な話し方・人間関係づくり・自己管理の基本を習得します。	1通	30	1		○	○				○
○			ソーシャルスキルⅡ	作業療法士にとって、医学知識や作業療法の技術とともに重要なのが対人スキルです。対象者や職場スタッフと円滑な人間関係を築く為には、自己を受容し自己肯定感を高めること、他者を受容し他者への恐れを取り払うことが大切です。また作業療法士は医療人として「演じる」ことが求められます。この授業では五感を働かせ、想像・創造・伝達を通し自己を表現すること、他者の想いを汲み取ること、チームワークを身に着けることを学んでいきます。	2前	30	1		○	○				○
○			解剖学Ⅰ	これから医学を学ぶものにとって「解剖学」は知識の土台となるものです。今後学ぶ専門分野の科目や卒業後の臨床においても、常に問われる分野の学問です。身体（解剖学では、人体と呼びます）の構造を1つ1つ学び、表現するための専門用語を知り、基本的な形態を学んでいきます。「解剖学Ⅰ」では、主として個体生命維持に関わる内臓や感覚器の構造と機能を学びます。	1前	30	2	○		○				○
○			解剖学Ⅱ	医学を学ぶものにとって「解剖学」は知識の土台となる科目であり、2年次から学ぶ専門分野の科目や卒業後の臨床においても、常に問われる分野の学問です。前期に学んだ解剖学Ⅰに引き続き、この科目では人体の構造のうち中枢神経系について、その構造と機能を学びます。	1後	30	2	○		○				○
○			生理学Ⅰ	生命活動を維持するために必要な中枢神経系、末梢神経系、筋の運動、血液などの機能について学び、臨床医学や専門分野を学ぶために必要な基礎知識を身に付けることを目標とします。	1前	30	2	○		○				○
○			生理学Ⅱ	生命活動を維持するために必要な循環と呼吸、排泄、消化吸収、ホルモン、代謝などの機能について学び、臨床医学や専門分野を学ぶために必要な基礎知識を身に付けることを目標とします。	1後	30	2	○		○				○
○			身体運動機能学Ⅰ	骨格構造、関節構造、筋の付着、神経など身体の構造と機能について学ぶ科目です。専門科目の土台となる知識を修得する大切な科目の一つです。この科目を通して、臨床医学を理解するための知識のみならず、評価・治療を行うための基礎的な知識を身に付けてください。	1通	60	4	○		○				○
○			身体運動機能学Ⅱ	身体の運動は関節が筋によって動かされることで起こっています。筋は中枢神経からの命令によって動いています。身体運動機能学Ⅱは、身体運動機能学Ⅰで学んだ人体の骨、筋、神経の構造・機能を基に主に関節運動について理解することを目的とします。	1通	30	2	○		○				○
○			身体運動機能学実習	1年次の「解剖学Ⅰ・Ⅱ」「身体運動機能学」および「運動学」を基に人体の機能構造と作用の知識定着を目的とします。人体の機能構造等の既習内容を深め、模型、触診等から人体に投射し、同定することを学習します。さらにご献体による解剖実習を通して、人体の機能構造における作用について知識を深め、理学療法評価・治療の基礎知識との関連性を学んでいきます。	2後	45	1		○	○	○	○		
○			人間発達	人間は生まれもってすべての能力が備わっているわけではありません。それぞれの発達時期にどのような能力が発達するか、認知、社会、身体などの側面から学んでもらいます。また、皆さんがまだ経験していない成人期以降の発達も学ぶことから、「ゆりかごから墓場まで」の生涯にわたる発達について勉強します。今後のリハビリテーションにおいて、アプローチをする上で役立ててください。	1前	30	2	○		○				○
○			運動学	運動学は、身体運動を科学的に捉える学問です。運動は関節が筋によって動かされることで起こっています。筋は中枢神経からの命令によって動いています。運動学では身体運動機能学Ⅰ・Ⅱで学習した骨・筋・関節・神経系の構造、関節単位の運動を基に、中枢神経系と運動の関係や、人間の全身的な運動がどのように行われているかを理解することを目的とします。	1通	30	2	○		○				○
○			運動学演習	運動学で学習したことを基本に、日常生活で使用する身体運動の分析について学びます。身体運動時どのような関節運動、重心変化が起こるのか、重力や外力の影響を観察によって評価するための基本事項を中心として、実際に身体動作を観察し分析しながら学習を進めていきます。	2前	30	1		○	○				○
○			病理学概論	各系統の疾患に共通の病気の基本概念、病気の本態、原因と成り立ち、経過、転帰などについて、わかりやすく解説します。病変は遺伝子から始まり、細胞、組織の変化へと移り変わります。病的な変化が生体の細胞・組織にどのように生じ、どのような経過をたどって疾病が形成されるか、基本的な概念を学習します。	2前	30	2	○		○				○
○			内部障害学Ⅰ	臨床において経験すると思われる代表的な内科疾患について、その病態、症状、治療に関して学びます。また、内科疾患に対するリハビリテーションを行う際に、その実践に活用できるように知識を習得することを目的とします。	1後	30	2	○		○				○

○			内部障害学Ⅱ	臨床において経験すると思われる代表的な内科疾患について、その病態、症状、治療について学びます。また、内科疾患に対するリハビリテーションを行う際に、その実践に応用できるように知識を習得することを目的とします。	2 前	30	2	○		○			○
○			神経障害学Ⅰ	神経障害へのリハビリテーションを行う上で必要な基礎疾患に関する知識を学習します。中枢神経系の疾患について発症要因や病態、症状の特徴および治療法について学びます。	1 後	30	2	○		○		○	○
○			神経障害学Ⅱ	中枢神経疾患の各障害について学びます。それぞれの障害が発現する疾患と対応させながら、よりリハビリテーション評価やリハビリテーション治療に結びつづための知識を身に付けます。	2 前	30	2	○		○		○	○
○			発達障害学	小児発達と小児期の疾患の概要について学び、発達障害の原因と成り立ちを理解するとともに、小児を対象としたリハビリテーションを行う上での基本的な知識を身に付けます。	2 前	30	2	○		○			○
○			運動器障害学	整形外科疾患のリハビリテーションを行う上での、基礎科学、診断学、治療学、疾患総論を基礎として学び、リハビリテーション治療に応用できる知識を習得します。 運動器障害の働きを中心となる骨、関節、筋、神経の基礎から、その機能や病態との関係を理解し、リハビリテーションを行う上での、評価や治療に活かせる知識を身に付けることを目的とします。	2 前	30	2	○		○			○
○			精神障害学	統合失調症や気分障害など、精神疾患は慢性に経過するものが多く、ほとんどすべてが作業療法の対象となります。長期入院が当たり前だった以前の精神科医療から、患者様が地域で生活し働きながら自立した生活を送ることが当たり前となりつつある今、作業療法士が精神科医療で活躍することが今まで以上に期待されています。本科目では作業療法の評価や治療を行い患者様の回復を図る上で必要となる精神疾患の病態や症状など基礎知識の習得を目的とします。	2 前	30	2	○		○		○	
○			臨床心理学	近年、「心理学」という言葉がメディア等を通じて社会に広まりつつあります。また、2017年9月に公認心理師法が施行され、「心のケア」「心理的支援」という言葉がより一層身近に感じられるものとなってきました。本講義では、前期に学んだ「心理学」の学問領域の一つである「臨床心理学」という学問について、その歴史と学派がどのような発展を遂げ、社会に貢献してきたのかということについて学ぶことを目的としていきます。また、心の病(精神疾患)や心のケア(心理療法)、心理的問題の理解とその方法(心理アセスメント)といった臨床の現場における心理学の貢献可能性についても取り上げます。	1 後	30	2	○		○			○
○			リハビリテーション論	これから学んで行く過程で、将来専門職として必要な専門領域に関する知識を学び理解することを目的とします。その中で医学的リハビリテーションの中心である作業療法を実施するための必要な知識を習得します。 リハビリテーションの概念と関係職種との連携のあり方を説明し、リハビリテーションの対象疾患となるリハビリテーション・アプローチを説明することができるようになります。	1 前	30	2	○		○			○
○			生命倫理	生命科学分野は今や多岐に渡り、それぞれにおける発展は目覚ましいものがあります。一方で、従来の思考の枠組みでは扱い切れない問題がたくさんあります。だからといって、茫然自失になっているわけにはいきません。生命科学分野における多岐にわたる問題を我々はどうにか考え、どのようにすべきなのかということを、自分たちの言葉で考え、学びます。それによって、医療者として求められる素養を涵養することを目的とします。	1 後	30	2	○		○			○
○			人間工学	人が何かの目的で行動を起こそうとするとき、必要な道具や物を自由に使うことができ、事故のない安全かつ効率の良い動作環境が必要となります。生体医用工学と安全工学の知識を利用して生体情報の検出や情報処理を行い、また治療機器などの保守管理を習得して機器の安全性を確認することはリハビリテーション分野の医療人にとって重要課題です。授業の前編部では、人の動作や運動と周囲に存在する道具との関わり合いと人体の物性的特徴や生理学的機能を習得します。中編部では生体情報の検出構成とその測定原理ならびに現用医療機器の動作原理を学習します。後編部では医療設備や医療環境の整備および安全管理を学び、最新医療機器の現状把握と問題点の抽出法を習得します。	2 通	30	2	○		○			○
○			医療関係法規	医療・保健・福祉に関する法制度と現代的問題について理解を得ます。国家試験の医療関係法規問題を学び、要点を理解できるようにします。 医療・保健・福祉に関する法制度について基礎的知識を説明でき、諸制度の問題点について現場から問題提起し改革案を提示できるようになります。	3 後	15	1	○		○			○
○			作業療法概論	作業療法について基礎知識から、将来の課題まで全般を学習します。これから学ぶより専門的な知識や技能、作業療法の役割や理論の概略を捉え、今後の学習の基礎を身に付けます。一人の社会人として、作業療法士を目指す学生としての自覚を促し、学習への意欲へつなげることを目指します。	1 前	30	2	○		○		○	

○			基礎作業学	「作業」とは作業療法の中核的な概念です。しかし、作業療法のために「作業」が存在するのではなく人間の本質として「作業」は存在します。人間が生きていることが「作業」とどのように関係しているのか、深めていくことがこの授業の目的です。	1通	30	2	○		○		○			
○			基礎作業学演習	作業とは、人の生活や一生を構成する全ての行為・行動の形態といえます。作業を治療援助手段として用いるには様々な作業の基礎を理解する必要があります。本科目では作業療法場面で多く用いられる作業活動やADL・IADL活動の演習を通じて包括的な作業の分析を行うための視点や考え方を習得します。	1通	60	2		○		○		○		
○			作業療法総合演習	臨床実習Ⅱ（評価）を控えた作業療法学生として、臨床に必要な面接、各種検査測定、情報分析、統合・解釈、リスク管理など基本的な知識・技術の定着を目指します。	2通	30	1		○		○		○		
○			作業療法特論	国家試験合格のためには膨大な出題範囲をできる限り深く、確実に学習しなければなりません。ここでは、国家試験の傾向とともにポイントをしぼって整理、学習を進めていきます。国家試験に対してしっかり対策を立てて臨めるよう、専門基礎分野と専門分野の知識を整理、確認して国家試験合格を目指していきます。	3後	60	4	○			○		○		
○			作業療法特論演習	国家試験の本番にむけて、当日同様、午前・午後に分けた模擬試験を経験することにより、専門基礎分野、専門分野の出題傾向・適切な解答を選択するようになります。回を重ねるごとに、適切な時間配分でミスなくマークシートに記入できる力をつけていきます。早期から実際の試験感覚に慣れ、また、弱点分野対策にも役立てられるよう国家試験対策を進め、国家試験合格を目指していきます。	3後	60	2		○		○		○		
○			作業療法研究法	作業療法にとって、その学問を発展させるためには研究が大きな意味を為します。これから作業療法士として作業療法を実施するための知識、技術を発展させる上で必要となる研究法や研究結果から得られたデータについての統計的処理方法を学びます。	3後	15	1	○			○		○		
○			作業療法管理学	社会に出て医療・福祉・保健領域で、専門職として働くことは大変なことです。その中でどのように職域や地位を確立し、信頼されるセラピスト、部門になることができるのか、考えて行動できるようになりましょう。各領域での作業療法の診療報酬やその他の取り組みについて学びます。	3後	15	1	○			○		○	○	
○			身体障害作業療法評価学	作業療法は、人間関係と環境的な構成要素を含む目的活動を機能障害の解決および予防の手段として利用し、最大限の適応状態を引き出すことを目標にしています。作業療法における評価とは目的活動を選択するために全ての処置に先行して実施されるもので、作業療法実施上不可欠なものとされています。この授業では、各種評価方法の基礎技法・各種評価方法によって得られたデータの解釈等を学びます。	1通	30	2	○			○		○		
○			身体障害作業療法評価演習Ⅰ	作業療法は、人間関係と環境的な構成要素を含む目的活動を機能障害の解決および予防の手段として利用し、最大限の適応状態を引き出すことを目標にしています。作業療法における評価とは、目的活動を選択するために全ての処置に先行して実施されるもので、作業療法実施上不可欠なものとされています。この授業では、そのための各種評価方法の基礎技法の正確な実施方法を学びます。	1通	30	1		○		○		○		
○			身体障害作業療法評価演習Ⅱ	作業療法は、人間関係と環境的な構成要素を含む目的活動を機能障害の解決および予防の手段として利用し、最大限の適応状態を引き出すことを目標にしています。作業療法における評価とは、目的活動を選択するために全ての処置に先行して実施されるもので、作業療法実施上不可欠なものとされています。この授業では、そのための各種評価方法の基礎技法の正確な実施方法を学びます。	2通	30	1		○		○		○		
○			発達障害作業療法評価学	成長・発達する時期の子どもたちを捉えていくことはとても難しいことです。また、対象とする年齢によっては、親を含む家族への育児・環境の評価の比重が大きくなります。視野を広げ、子どもたちが子どもらしく生きていくための評価とは何かについて学びます。	1後	30	2	○			○		○		
○			精神障害作業療法評価学	心を病む人々に対する評価とは、精神機能の障害としての精神症状だけでなく、それをもたらす精神疾患の成因や治療を踏まえて、対象者の精神的かつ社会的存在としての「人間」を深く理解することです。この授業では、作業療法で援助していくためにどのような視点や方法を持って「人間」を理解していくのか、また心を病む人々に対する作業療法の枠組みとはどのようなものかを学びます。	1後	30	2	○			○		○		
○			精神障害作業療法評価演習	心を病む人々に対する評価とは、精神機能の障害としての精神症状だけでなく、それをもたらす精神疾患の成因や治療を踏まえて、対象者の精神的かつ社会的存在としての「人間」を深く理解することです。この授業では作業療法で援助していくためにどのような視点や方法を持って「人間」を理解していくのか、実習をとおして学びます。	2前	30	1		○		○		○		

○			老年期障害作業療法評価学	日本の高齢化は急速に進み、高齢者を対象とした作業療法への期待は非常に高まっています。超高齢社会へ急速に移行していく中で、作業療法の需要は増え続けています。高齢者は、加齢・老化とともに心身の機能が低下していきます。加えて、複数の疾患を合併していることも多く、その治療には多種多様な知識と技術を必要とします。この授業では高齢者の身体機能や認知機能の理解とその作業療法実践に必要な評価法を学習します。	1 通	30	2	○		○		○	
○			身体障害作業療法学	「作業療法評価学」や「運動器障害関連作業療法学」で学んだ関連事項をもとに、身体機能作業療法学の基礎を整理し、評価から治療の実施に至る作業療法過程を学んでいきます。病期に応じ様々な変化する治療内容の違いや疾患特有の治療法などを、作業療法の実際を交えて学習していき、身体障害領域の作業療法の役割やその考え方を学んでいきます。	2 通	30	2	○		○		○	
○			身体障害作業療法演習	身体障害領域の作業療法で代表的な疾患の評価・治療の実際を通して、身体障害領域に必要な作業療法治療の知識・技術の習得を目指していきます。その中では、臨床の場で実際どのような状況が想定され、どのように対応していくのか、より実践的な知識・技術の習得も目指していきます。	2 通	30	1		○		○		○
○			精神障害作業療法学	精神障害の病態と心理状態を理解し、援助していくための作業療法の知識を学びます。精神障害に対して、臨床での作業療法が実施できるようになるために、精神障害者とのコミュニケーションのとり方や面接法、基本的な態度など作業療法の評価技術と評価を理解し、治療・援助の方法を習得します。	2 通	30	2	○			○		○
○			精神障害作業療法演習	精神障害の病態と心理状態を理解し、援助していくための作業療法の実践的な知識を学びます。臨床での作業療法が実施できるようになるために精神障害者とのコミュニケーションのとり方、面接法、基本的な態度など作業療法の評価技術と評価を理解し、作業療法の実際の治療場面を想定し、より具体的な治療・援助の方法を習得します。	2 通	30	1		○		○		○
○			老年期障害作業療法学	日本の超高齢社会により、高齢者の重複障がいに対応できる作業療法士が求められています。高齢者に代表的な認知症を中心としたその評価・介入・援助について学びましょう。また高齢者や障がい者などを含めた終末期医療のあり方・作業療法の視点についても本授業では取り扱います。人が死にゆく過程と医療のみならず人間的な対応についても学びましょう。	2 前	30	2	○			○		○
○			老年期障害作業療法演習	高齢障害者は、脳血管障害・パーキンソン病などの中枢神経疾患や、骨折等の運動器疾患の複数疾患を併せ持つことが多く、重度障害ケースも多くリハビリテーションに難渋する場面も少なくありません。実際の臨床現場では、総合的な知識を必要とする場合が多く、老年期という枠組みだけで作業療法を展開する事は困難です。本授業では、身体障害作業療法学との関連で、中枢神経疾患におけるパーキンソン病と運動失調症・運動器疾患への治療を学んでいきましょう。	2 通	30	1		○		○		○
○			高次脳機能障害作業療法学	高次脳機能障害は全般的に捉えにくい難しさをもった障害です。この授業では、このような特徴をもつ高次脳機能障害について脳の全般的なはたらきと結びつけながら、一つ一つの知識を整理し、その理解を深めていきます。臨床で作業療法士が関わる多くの症候学的な問題と検査法、治療法について理解を深められるよう広く学習していきます。	2 通	30	2	○			○		○
○			発達障害作業療法学	発達障害領域の基本的な知識を学びます。成長・発達期の子どもを対象とした作業療法の特徴を捉え、その目的を理解します。発達障害領域の作業療法の役割を説明し、治療理論について説明できるようになります。評価方法と目的を述べることができ、評価結果を様々な視点で解釈し、述べるできるようになります。	2 通	30	2	○			○		○
○			発達障害作業療法演習	作業療法における評価から治療プログラムの立案、実施の知識や技術を学びます。成長・発達する時期の子どもたちを捉えていくことはとても難しいことです。また、対象とする年齢によっては、親を含む家族への育児や環境の評価の比重が大きくなります。広い視野で、子どもたちが子どもらしく生きていくための介入方法を学びます。	2 通	30	1		○		○		○ ○
○			日常生活活動学	作業療法における日常生活への関わりは、作業療法の目的でもある「対象者が生き生きとした社会生活を送ることができるように援助すること」に通じていくもので、リハビリテーションを考えていく上で重要な部分でもあります。この授業では、日常生活活動の定義や範囲など、日常生活活動の全般的な学習をしていきます。	2 通	30	2	○			○		○
○			日常生活活動学演習	作業療法における日常生活活動への関わりは、リハビリテーションを取り巻く環境において重要な部分です。この授業では、日常生活活動の評価方法や治療・援助方法に関するポイントを様々な実習から学んでいきます。また、作業療法の対象疾患について実際に日常生活活動プログラムの立案を行い、その基本と要点を学びます。これらの演習により日常生活活動を援助していく上で大切な作業療法の役割を学習し、それらを実践していける知識と技術の習得を目指します。	2 通	30	1		○		○		○

○			装具関連作業療法演習	義肢の歴史、分類、切断、仮義手の製作・訓練、装具の役割、分類、機能、上肢装具、治療訓練、適応疾患について学び、実際にスプリントの製作を行います。また義手・スプリント・車椅子のチェックアウトを実施します。 義肢の歴史、分類、切断、義手の訓練、チェックアウト、装具の役割、分類、機能等、車椅子のチェックアウトについて説明、実施することができるようになります	2 通	30	1		○	○	○						
○			職業関連作業療法学	「働く」ということが人の生活にとってどのような価値をもつのかという視点で、リハビリテーションを考えていくことが重要です。しかし、現実には医学的なリハビリテーションで終わることもしばしば現状です。作業療法の歴史的な背景を踏まえ、近年の障害者施策をとらえながら就労問題に積極的に取り組めるように、基本的な考え方を身に付けましょう。	3 後	15	1	○		○		○					
○			作業療法治療学各論	これまで各分野で学習してきたことをまとめ、作業療法とは何かということについて、実際の現場の状況をふまえながら作業療法についての理解をより深め、作業療法士としての独自性を考察します。	3 後	15	1	○		○		○		○	○		
○			地域リハビリテーションⅠ	最近の医療情勢では、早期退院・在宅復帰率向上・住み慣れた地域での生活を求める流れになっています。一方で、超高齢社会に伴う介護難症者の増加とサービス不足が懸念されています。本授業では、地域リハビリテーションの基礎知識に加えて、「小児から高齢者」「身体障害から精神障害領域」のリハビリテーション関係者・家族など他者との連携・ネットワーク、チームアプローチについて理解することを目的としています。	1 通	30	1		○		○			○			
○			地域リハビリテーションⅡ	地域における作業療法士像を具体的にイメージし、自己の目指す作業療法士の理想像を描けるように、介護保険領域における施設・事業所のサービスの特色、作業療法士や関連職種等の役割について体験実習を行います。地域に暮らす障害者・高齢者等とのコミュニケーションにより、対象者の全体像・障害像を捉え、体験実習で得た情報をもとに統合・解釈し、対象者の課題・目標を挙げるため、座学・体験実習を実施していきます。	2 通	45	1			○	○	○				○	
○			地域作業療法	地域作業療法とは、活動や参加に制約のある人々が望むくらしを、その住む地域で実現するために、その人にふさわしい役割や楽しみとなる作業の獲得を促すことです。「生活」・「作業（occupation）」という作業療法の有する基本的な援助技術を基に、障害児・者の安心できる「生活づくり」と「地域づくり」、さらに障害者および家族・地域住民を含めた「ヒトづくり」への支援を目的に活動するものです。本授業では病院・施設から在宅復帰を目指すための介入方法、さらに訪問リハビリテーションにおける介入方法など地域における作業療法の援助技術を学びます。	3 後	15	1	○			○						○
○			生活環境学	人間は自身の機能や能力などの内部環境と、人的・物理的・文化・自然などの周囲環境から与えられる外部環境との相互関係の中で活動しています。生活環境学とは、対象者を取り巻く環境、つまり外部環境について考察する授業になります。本授業では、生活環境について疾患別の住環境整備や福祉用具の選択を適切に選択できることを目標とします。	2 通	30	1	○			○				○		
○			臨床実習Ⅰ（見学）	リハビリテーション専門職を目指す学生として、基礎医学分野や専門分野の基礎的な領域の学習が一段落した段階において、実際の臨床現場を見学します。医療現場の見学やリハビリテーションを中心とした治療の見学、リハビリテーションスタッフによる一連の医療活動全般の見学およびチームアプローチの実践を体験します。 社会人・専門職としての望ましい態度や行動をとり、保健医療の専門職として、指導者や対象者とのコミュニケーションをとることができるようになります。専門職として将来にわたり学習する基盤、意欲を持ち、チーム医療における作業療法士の役割を把握し、対象疾患・障害について幅広く見学し、学修した基礎知識と関連づけることができるようになります。	1 後	45	1			○		○	○	○	○		
○			臨床実習Ⅱ（評価）	1年次の臨床見学実習で得られた知識や経験の上に専門知識を加えて、実際の臨床場面において評価から問題点の抽出、目標設定・治療計画の立案までのプロセスを経験します。 社会人・専門職としての望ましい態度や行動をとり、保健医療の専門職として、指導者や対象者とコミュニケーションを円滑にとることができるようになります。専門用語を用いて適切な記録・報告ができ、これまでに学んだ知識を指導者の助言・見守りのもと対象者にとって相応しい評価を計画・実施し、評価計画と実施方法を必要に応じて変更・修正することができるようになります。評価結果から対象者の全体像を把握し、対象者にとって相応しい目標を設定し、達成する為の治療プログラムを立案することができるようになります。	2 後	135	3			○		○	○	○	○		

○			臨床実習Ⅲ(総合)	臨床実習指導者の監督の下、各種疾患の障害に対するリハビリテーション全般を実習体験します。身体的・精神的・社会的な面など対象者を取り巻く状況全てを包括的にとらえ、医療従事者としてリハビリテーション専門職としての基本的な資質・知識・技術を身につけることを目標とします。 また、評価～問題点抽出～治療計画立案～治療実施という一貫した流れを経験し学習します。 保健医療の専門職として望ましい態度や行動をとり、能動的に周囲に働きかけ、対象者の評価を計画・実施し、必要に応じて変更・修正することができ、対象者にとって相応しい目標を設定し、達成するための治療プログラムを立案し、対象者の反応や変化を的確に捉え、実施方法等を変更し適切に対応することができるようになります。実施した治療の経過や結果の妥当性を検証し、治療目標・プログラムを変更・修正、全体を俯瞰し、保健医療の専門職として自己の将来像を描くことができるようになります。	3 前	315	7			○		○	○	○	○
○			臨床実習Ⅳ(総合)	臨床実習指導者の監督の下、各種疾患の障害に対するリハビリテーション全般を実習体験します。身体的・精神的・社会的な面など対象者を取り巻く状況全てを包括的にとらえ、医療従事者としてリハビリテーション専門職としての基本的な資質・知識・技術を身につけることを目標とします。 また、評価～問題点抽出～治療計画立案～治療実施という一貫した流れを経験し学習します。 保健医療の専門職として望ましい態度や行動をとり、能動的に周囲に働きかけ、対象者の評価を計画・実施し、必要に応じて変更・修正することができ、対象者にとって相応しい目標を設定し、達成するための治療プログラムを立案し、対象者の反応や変化を的確に捉え、実施方法等を変更し適切に対応することができるようになります。実施した治療の経過や結果の妥当性を検証し、治療目標・プログラムを変更・修正、全体を俯瞰し、保健医療の専門職として自己の将来像を描くことができるようになります。	3 前	315	7			○		○	○	○	○
合計				70科目	2835時間(128単位)										